



おまえぎの きらり輝く人

小笠浜岡 リトルシニア

自分たちらしい野球で勝利をつかめ



PROFILE

上段左：徳山拓臣、中：落合順也、右：増田来希、下段左：沖宗永規、中：植田蒼、右：飯塚圭樹。小笠浜岡リトルシニアは、週4日間（水、金、土、日）練習している。新入団員も募集している。

初の全国大会出場

高校野球界からも注目を集め、県内でも知名度が上がっている中学生の硬式野球。本市でも「小笠浜岡リトルシニア」（戸塚真二監督）が活動している。同チームが、創部11

年目で初の全国大会（第18回日本リトルシニア全国選抜野球大会）出場を手中に納めた。メンバーは、主に本市と近

隣市の子どもたちで構成されている。中には、島田市や藤枝市から通う子もいるという。3年生が卒団し、部員は現在

27人。本市では、増田来希（佐倉一区）、沖宗永規（中町）、落合順也（中町）、植田蒼（上比木）、徳山拓臣（下朝比奈）、飯塚圭樹（東町）の6人が所属している。団員は、各大会での勝利はもちろんのこと、高校野球を視野に入れ、日夜練習に励んでいる。

小笠浜岡が加盟しているのが、全日本リトル野球協会関東連盟南関東支部。「南関」と呼ばれる同支部は、神奈川県と静岡県との6チームが加盟する。強豪揃いで、全国大会でも上位へ食い込んでいくよう

なチームがひしめき合う。それゆえ周囲からは激戦区と呼ばれ、勝ち上がることは容易ではない。戸塚監督は「何度も南関東大会で悔しい思いをしてきた。10年監督をやっているが、関東大会に出場できたのは1回だけ」と話す。

全国大会までの道のりは長く、険しいものだった。昨年9月から始まった南関東大会は敗者復活戦を合わせ7試合、関東大会では4試合を戦った。並み居る強豪を撃破し、ベスト8まで上り詰めた同チーム。関東大会での成績が認められ、全国大会出場となった。

1つでも多く勝つ

同チームは全国大会へ向け1月4日から始動した。チームを牽引する2年生の増田、沖宗、落合、植田、徳山は「毎日の自主練習や筋力トレーニングは欠かさない。自分たちらしきを出し、1つでも多く勝ち上がれるよう頑張りたい」と抱負を語る。全国大会は、大阪府の京セラドームを中心に、3月26日～4月1日の日程で開催される。全国の舞台で、大暴れしてきてもらいたい。